

5月28日(水)→6月2日(月)

卒寿記念 作陶70周年

森野 泰明 陶展 -響きあう彩りとフォルム-

1934年京都市に生まれた森野先生は、京都市立美術大学で富本憲吉氏の教えを受け、卒業後は若くしてシカゴ大学の招聘で渡米し、アメリカの現代美術を体感されました。以来、生まれ育った京都五条坂のDNAと日本独自の美意識を土台に、自己の創意による現代の陶芸を制作されています。卒寿を記念し、作陶70周年となる今展では、ライフワークである「響きあう彩り」と「フォルム」をテーマに、花器、壁掛などの新作を一堂に展覧いたします。

「黒錫緑彩耳付花器」
(21.5×16.8×高さ19.5cm)かざ うちわ に ほん が
飾り団扇と日本画展

古来、団扇は涼をとるだけでなく、その風で魔を打ち払う縁起物とされてきました。また、伝統的な京団扇の仕立てによる飾り団扇は、繊細で優美な意匠も備えています。本展では「おくのほそ道」を共通の題として、各作家が取り組んだ飾り団扇の作品とともに、それぞれのテーマに沿った本画作品を一堂に展覧いたします。

(出品作家)

秋野 亜衣 岩崎 絵里 木下 めいこ 後藤 吉晃 佐々木 真土 佐藤 はる香
田村 葵 長谷川 雅也 (敬称略・50音順)佐々木 真土「おむの花」
(36.5×高さ41cm×持ち含む)

6月4日(水)→9日(月)

高波 壮太郎 展 -行雲開花-

高島屋での個展も延べ100回を超え(初個展は1990年高島屋大阪店)、今もなお圧倒的な質量と熱量の作品群で観者に強烈なインパクトを与え続けています。近年では、モチーフをより簡略化、抽象化することで、逆説的に対象の持つモノの本質や精神性までも包括し表現しているかの様にも見受けられます。喜寿を目前に、空を流れゆく雲のようにより自由闊達に絵筆をふるう画狂人高波壮太郎先生の現在を、どうぞご高覧ください。



「百合の花」(91×41.5cm)

とよ すみ かず ひろ
喜寿記念 豊住 和廣 陶展

先生は古都奈良で生まれ育ちました。飛鳥時代、奈良時代の「時」への想いを土に込め、ひとつひとつ手びねりで表現されています。少しでもいにしえを感じて穏やかな気持ちになっていただければと仰います。何卒ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

黒泥象嵌器「あすかの宙」
(55.2×26×高さ31cm)

6月11日(水)→16日(月)

ウィーン・アウガルテン美術館巡回個展

日本藝術院会員就任記念 土魂の個展 十一代 大樋 長左衛門(年雄)

本年、日本藝術院会員に就任された十一代 大樋長左衛門先生の土魂の個展を開催いたします。昨年は能登半島地震で被害を受けた作品の破片をつなぎ合わせ、再び焼成した転生茶盤を発表し、大きな注目を集めた大樋先生。今展では、大樋家伝統の黒、胎の茶盤や先生独自の窯変茶盤、漆喰のペンティンなどの新作に加え、昨年から今年にかけてウィーン・アウガルテン美術館で開催した個展で展覧された作品も帰国展示いたします。

ギャラリートーク ■6月14日(土)午後3時から



「大樋窯変茶盤」(12.8×高さ8.5cm)

6月18日(水)→23日(月)

山下 まゆみ 展 -富士山・JAPAN・猫-

これまで海外の美術に刺激を受けて日本画を描かれていた山下先生は、近年では、日本の美術が自分自身の内側に存在したことを強く感じて制作されています。今展では、日本美術への畏敬の念を富士山を描く事で表現され、そして、日本人の優しさや強さを身近な猫たちを描くことで表現されています。富士山や龍、猫の作品を含む20余点を展覧いたします。ぜひともご覧ください。



「金富士」(6F)

こう げい び
工芸の美 第54回 日本伝統工芸
近畿展 出品者選抜展

今年で第54回を数える日本伝統工芸近畿展。この度その近畿展出品作家による選抜展を開催いたします。第54回展において最も輝いた作品を制作された受賞者、そして今後の活躍が期待される入選者の方々を中心に、また高島屋選抜として伝統工芸のこれからを担う若手・中堅の作家たちが近畿展出品作とは異なる作品を展示いたします。伝統の技と個々の美意識から生み出された格調高い作品を幅広くご紹介いたします。ぜひご高覧いただきますよう、ご案内申し上げます。

多賀井 正夫「青瓷花入」
(18×18×高さ20cm)

6月25日(水)→30日(月)

全日本刀匠会創立50周年記念 新作日本刀展

伝統文化を今に伝える現代刀匠。全日本刀匠会創立50周年を記念して、全国で活躍する刀匠の渾身作を一堂に展示いたします。展覧会期間中は刀匠が在廊し、日本刀の魅力をお伝えいたします。

ギャラリートーク ■6月28日(土)午後3時から

月山貞利「銘文」表:大和住月山貞利彫同作(花押)
裏:令和五年三月吉日」(刃長8寸8分 26.6cm)ほり ぐち ご みちしう
堀口 五明笑 展 -オオサカバンパクワンパカエル伝-

1982年より陶彫を始められた堀口五明笑先生…擬人化されたカエルの作品に自然と笑みがこぼれます。お祭りがもたらす日本人の妙技や一体感、日々の晩酌の哀愁など…多くの外国人をお迎えするこの時期にナニワの地での15年ぶりの個展をお楽しみください。

「龍」(41×9×高さ18cm)

TAKASHIMAYA
2025 5・6月
Art Information
高島屋大阪店6階ギャラリーNEXTのご案内6 11 23
WED MON
※6月17日(火)は開催いたします。

高遠 まき 展 -夢幻銀幕 Dreamscape Screen



プロダンサーとしての経歴を持ちロンドンで空間芸術、哲学を修めロイヤル・カレッジ・オブ・アートを首席で修了された高遠先生の作品は映画の銀幕をイメージしています。観る者の記憶や感情を呼び覚まし、多層的な解釈を促す作品は、視点や時間の流れによって異なる表情を見せます。記憶や体験の曖昧さ、多様性を探求する空間をお楽しみください。

「光覇」(72.7×72.7cm)

6 25 7 7
WED MON
※7月1日(火)は開催いたします。

岡安 真美 展



カラフルな釉薬の粒を施した「arale」シリーズは鉄瓶の殻のよう…より細かく、より立体的に進化し続けています。造形も、用途のあるものからオブジェ的なものへと幅が広がり、ポップな色合いもあいまって、より楽しい空間を演出するアート作品を創造されている岡安真美先生の待望の初個展です。

「玉響」(9.6×22.7×高さ12.5cm)